

週日の説教

金 大烈 神父 2008年7月17日(木)

《試練は、恵み！》

今日の福音（マタイ 11・28-30）を読みますと面白いところがあります。

イエス様は、「私のくびきは負いやすく、私の荷は軽い」とおっしゃいました。「私にはくびきがない、私には重荷がない。だから休んでください」とはおっしゃいませんでした。

なぜならば、私達に与えられた人生の中で、くびきを負わない、重荷を負わない、というわけにはいかないからです。私たちが錯覚を起こさないために、イエス様ははっきりとおっしゃっているのです。信仰の道を歩み、信仰の体験ができ、イエス様と一致することさえできれば、何も難しいことはなくなるという錯覚をおこさないために。そして、そのような錯覚を起こすことはよくあります。その時、一番恐れなければならないのは、何かの試練に襲われたことにより、信仰を捨ててしまうということです。それは、よくあることです。一生懸命に信仰生活をしてきた人がある日突然、教会へ足を運ぶのをやめてしまうことがあります。理由を聞くと、いろいろなことがあった結果、イエス様を信じる必要がないと思ったことを話してくれます。

試練は必ずあります。そしてカトリック的に言いますと試練は恵みです。それを悟るために必要なものがあります。それは時間です。なぜ私はこのような難しい問題に遭遇しているのか、なぜ私はこのような試練を受けなくてはならないのか、そういう質問をイエス様に伺う時間です。

その時間というものが結局、祈りです。そしてその祈りによって、自分に与えられた全ての難しさの意向を悟ることになります。その悟りが信仰を強めてくれます。

結局私たちは誰も十字架を負いたくはないのです。それはあたりまえです。しかし、その十字架をこばむのではなくて、なぜ私にこういうことが起こらなくてはならなかったのか、疑問を持ち、その意味を一生懸命にイエス様に伺おうとする心が信仰の道ではないでしょうか。

韓国には、このようなことわざがあります。

『神様は贈り物をくださるとき、必ず苦痛という風呂敷に包んでくださる。人々は自分に与えられている苦痛という風呂敷を解こうとする。しかし、その痛みのために、途中で解くことを諦めてしまう。そして、中身を見ようとしなくなってしまう』

しかし信仰と言う時間の中で、心をこめて、その風呂敷を解こうとする努力が必要なのではないでしょうか？ 幸い、イエス様は、解かずに諦めてしまった人々にも待っていてくださいます。最後まで待っていてくださいます。もし、今までに諦めてしまった方がいるならば、イエス様は今でも呼びかけて待っていていらっしゃるのです。

結局信仰というものは、応えることです。ですから、中身を見ないまま判断はしない、という心を持ち、最後まで中身が何であるか知ろうとする気持ちが必要なのだろうと思います。

皆様、私たちの人生の中には必ず重荷があります。くびきがあります。諦めずに、その重荷やくびきの意味を把握し、それらが私達にとっては一番大きい素晴らしい恵みであるということを知ることが信仰なのではないでしょうか。

ありがとうございました。